

Val.2012年3月14日

International Institute for Monetary Affairs Symposium

混迷するグローバル経済—コンフィデンス回復への道筋を探る
Seeking Paths to Restore Confidence in the Global Economy

開会挨拶

Opening Remarks on World Economy 2012

3月15日

専務理事 渡辺喜宏

Managing Director Yoshihiro Watanabe

私からは、パネリストの皆様スピーチと議論に先立ち、本日の二つのセッションに関し、重要と思われる点をいくつかピックアップさせていただきたく存じます。

現在の平穩、地殻変動が揺るがず世界、その課題、そして信任の回復に向けてのポイント、となります。

まず現状をどうみるかという点です。

世界の株式市場の回復や、円高の一服を、皆様と共に歓迎しています。これらは、ギリシャへの第二次支援合意、ECBの大量資金供給による資金市場の緩和に加え、米国の失業率の低下など、実体経済の回復への期待をも反映しているとみられます。

主要途上国のインフレによる、景気の腰折れ懸念も、一服し、途上国が金融政策を緩和気味に転換しうることも、明るい材料かもしれません。

しかし米国の住宅市場が本格回復するには、しばらく時間がかかりそうです。欧州の債務危機の背景にある、金融機関の不良債権の処理が、どこまで進んでいるのか不透明です。ギリシャの救済合意の実現性には、疑問が残ります。市場には、大量の流動性が供給され、資源・エネルギー価格の高騰など、ネガティブインパクトが

懸念されています。

不安定な市場では、予期せざる事象が発生しやすく、制御不可能な事態に陥る懸念を拭い去れません。危機の収束には時間がかかる一方で危機の再来は早く、このところ危機が連続しています。

我々は 1930 年代の過ちを犯しつつあるのではないか、という懸念を持つ有識者もいます。

現在は、偽りの夜明け—False Dawn ではないかという思いにとらわれます。

我々はなぜ、このような混迷のなかで、出口を見いだせないのでしょうか。リーマンショックへの対応では、金融規制の強化や監督体制の強化の枠組みを描くと共に、財政出動による景気対策が奏功し、一旦夜明けを見たような気がしました。しかし一方、放漫な財政対応は、財政危機を招いています。

危機の波及は、グローバルです。我々は、欧州の出来事と等閑視するどころか、思わざる円高、エネルギー価格の高騰、輸出の減速、金融規制による、予期せざる副作用におびえています。我々は、技術革新と市場統合の進展により、網の目のように結ばれた、世界に今います。クモの巣の、一か所の揺れが、どこに居ても、瞬時に感知されるように、影響は即時に伝わり、避けられません。

これに対し、リージョナルな枠組み—セーフティネットでの危機の遮断は、不可能でしょうか、また地域の枠組みと世界的な枠組みとの協調には、不安が残ります。

リーマンショック以降、途上国の力とその成長に、世界経済が支えられた事は、忘れられない又今も続く大きな変化です。Angus Maddison によると 2030 年の世界は、中国・インドが再興し、アジアが、世界経済の過半を占めるとされます。このシナリオが、今現実味を帯びています。途上国のリード役中国の台頭は、世界経済の構造を、根底から変革し、その進路、とりわけ人民元は、どのような役割を果たすのでしょうか。

ユーロは、第二の準備通貨としての輝きを失っています。最近人民

銀行は、人民元の国際化の現状と短期・中長期の、国際化の進展のための工程について、試案を発表しています。人民元は、第三の準備通貨としての地位を、固められるのでしょうか。

同時期、世界銀行と中国国務院発展研究センターは、中国の持続的成長のための、6の改革提案を発表し、注目を集めています。成長センターアジアの牽引役、中国の持続的成長には、市場経済の徹底、イノベーション、グリーン成長、社会保障システムの充実、財政改革そして世界との互惠関係の確立が必要とされています。報告書は2月27日に公開されています。

中国・インドが更に高成長を継続し、Angus Maddisonの予測を実現する道は、厳しいとみられます。アジア開発銀行は2050年のアジアという報告書で、今世紀はアジアの世紀となるのか、ラテンアメリカのように、失われた10~20年による、ミドルインカムトラップに陥るのか、岐路に立っているとしています。

おそらく、成長持続の重要なカギの一つは、資源確保で、地域協力の枠組み作りと世界との協調による平和の維持も、今世紀のアジアの時代をリードする人民元の将来にとって不可欠とおもわれます。

先進国の成長の回復は、中国の更なる成長に繋がりますが、EU,米国、日本ともに、ダイナミックな成長に戻るには時間がかかるとみられます。パネリストの意見をぜひお聞きしたいところです。

最後に今一度欧州の問題を振り返り、本日のセッション—信頼回復への道筋の議論に、つなげて行ければと存じます。

ギリシャ経済の、持続的な成長への回帰の道筋は、欧州の財政統合の道に通じると思えます。ラテンアメリカの危機を振り返ると、債務国の構造改革と、債権者であった銀行の損失負担体力の回復の2条件が整い、始めて債務カットとニューマネーの投入が行われました。構造改革・民営化とセットのデットエクイティ・スワップなどで、成長軌道への復帰の道が拓かれています。ギリシャでは、この過程が済んでいません。今後は、むしろ欧州内の支援国側には、ギリシャの成長軌道への復帰を助ける努力よりは、ギリシャ側の損得にかかわらず、ギリシャを排除してゆく路線が、力を増すように思えます。民間機関投資家をみると、債権の切り捨て幅が大き

いだけに、今後のギリシャの成長回復への更なる協力は期待できないように思えます。

グローバルな、そしてリージョナルなファイナンシャルアーキテクチャーと通貨の体制については、模索の時代が続くように思えます。アジアの世紀に向けての移行の過程は長く、不安定な市場の状況が続きそうです。 予期せざる事象に襲われても、市場が耐えうるように、備えが築かれることを、民間は期待しています。

足元のアジアで言えば、チェンマイ・イニシアティブのマルチ化はアジア通貨基金の設立に発展するのか、或いは域内での人民元の国際化への協力など、前向きな金融システム安定化に向けたパネリストの皆さまの議論に期待します。 景気の悪化を招きかねない、米国の規制強化、或いは欧州の金融取引税や欧州独自の金融機関の自己資本充実の為の時限設定など、金融関係者にとっては憂慮すべき施策も多くパネリストのご意見を伺いたいところです。

ご静聴ありがとうございました。